

第2回市島地域市立小学校統合検討委員会 会議録

◇開 会	令和2年 9月 3日 (木)	午後 7時30分		
◇閉 会	令和2年 9月 3日 (木)	午後 9時30分		
◇会 場	ライフピアいちじま研修室			
・委員長	川上 泰彦	・副委員長 坂根 眞一		
・委員	青木 修	坂谷 高義	木寺 章	淵上 利美
	吉見 祐也	藤原 一平	井上航太郎	北村 由香
	田中 亮太	長井 勇人	岡 大豪	志堅原 愛
	由良 英樹	吉井 公乃	井上 美菜	荻野 幸広
	蘆田 勤	吉見 典彦	足立 圭造	八尾 滋樹
	村岡 正典	荻野 尚子	余田 淳子	

〔事務局〕

・教育部長	藤原 泰志
・教育部次長兼学校教育課長	足立 和宏
・学校教育課副課長	谷川 知美
・学校教育課指導主事	榊 国光
・学事課長	井尻 宏幸
・教育総務課長	足立 勲
・教育総務課学校統合準備係長	船越 正一
・教育総務課指導主事	小田 敏治
・教育総務課主事	畑中 直之

次第

(足立教育総務課長)

1 開会

ただいまから第2回丹波市市島地域市立小学校統合検討委員会を開会いたします。

私は、本日の進行を務めます丹波市教育委員会教育総務課長の足立勲と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

会議を始める前に、委員の皆様には配付資料の確認と注意事項がございます。

本日の配付資料につきましては、事前に郵送させていただいております次第とグループ分けの名簿です。お忘れの方はございませんでしょうか。

次に、この委員会についての注意事項です。この委員会は、公開して開催するため、傍聴席を設けております。委員会の会議録を作成いたしますので、録音をさせていただきます。会議録作成の関係から、発言の際は、マイクを持ってまいりますので、名前を発せられてから御発言いただきますようお願いいたします。ただし、本日はグループワークが中心になります。グループワークでの意見交換については、録音を行いません。よろしくようお願いいたします。また、会議録は、教育委員会ホームページに後日掲載いたします。

教育委員会、またはこの委員会からの情報発信、記録のために写真撮影を行います。本日、報道機関の方もお見えですので、写真撮影される場合がありますので、御了承ください。

次に、傍聴席の皆様には、傍聴規則に基づいて傍聴いただきますようお願いいたします。本日の会議次第と前回の会議録を傍聴者用として準備いたしておりますので、御覧いただきながら傍聴いただければと存じます。

次第

(足立教育総務課長)

2 あいさつ

それでは、次第の2番のほうに入らせていただきます。市島地域市立小学校検討委員会、川上泰彦委員長から御挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

(川上委員長)

皆さん、こんばんは。第2回の統合検討委員会となりました。前回もお話ししたとおりなんですけど、市島地域の小学校の形を今後どうしていくかということについて検討していく委員会ではあるんですが、どういう形にするかというのは、あくまで手段です。大事なものは、どういう子供を育てたいかとか、どういう地域を作りたいかという目的があって、そのための手段をどう考えるのか、そのための集まりだということですね。

今日は、その目的の部分みんなで考えてみましょうということで、グループワークの時間を設定させていただいております。なので、出方を探るとか、そつのないことを言ってみようとかするのではなくて、いろんなことを言うのが大事ですね。どういうことがいいかというのと、とにかくいろいろ言うことですね。質と量という言い方で言えば、まず多分、最初やるべきは量だと思います。とにかくいろいろしゃべると。量を出していくと、その中に、いいものが見つかってくるといって、大体、人間、物を書き出したりとか、物をしゃべったりというときは、そんな感じです。うーんと考えていいものをこそっと書こうとか、うーんと考えていいものをぽこつと言おうと思っていると、量が出てこないの、いい質問が出てきにくくなったりします。なので、出てくるものの質というのは、とりあえずどこか置いて、とにかくいろんなことを言ってみる。たくさんいろんなことを言ってみるということを大事に、今日の時間を過ごして進めていただけるといいなというようなことを考えています。

ちょっといつもと違う進め方になりますが、今日はどうぞよろしくお願いいたします。

次第

(足立教育総務課長)

3 今後の教育の方向性について

ありがとうございます。それでは、次第3番のほうに移ります。今後の教育の方向性についてということで書かせていただいておりますが、本日のグループワークをしていただくに当たって、その話題の一つとして挙げていただければということで、今後の教育の方向性について、教育委員会次長兼学校教育課長の足立和宏から、10分程度、説明をさせていただきます。

(足立教育部次長兼学校教育課長)

改めまして、皆さん、こんばんは。次長兼学校教育課長の足立でございます。日頃はそれぞれのお立場で丹波市の教育に御尽力いただいておりますことを、まず感謝申し上げます。

今日は、今後の教育の方向性ということで、この後のグループワークに少しでも参考になればというふうに思います。ただ、限られた時間ですので、私からは二つお話をしようと思います。

一つは、今後、子供たちに育てたい資質・能力。簡単に言えば、子供たちにつけたい力は何かということです。もう1点は、小学校のお子さんをお持ちのお父さん、お母さん、また、おじいちゃん、おばあちゃんなら御存じだと思うんですが、教科書が新しく変わりました。これは、学習指導要領というのが変わって、教える内容等が変更されたために教科書会社も新しい教科書を作っております。その中で出てきましたプログラミング教育、それと、授業時間が高学年、5・6年生は増えました外国語教育

について、少し丹波市の現状をお伝えしようと思います。それでは、この後は着座にて失礼いたします。

子供たちが大人になって生きていく未来は、今までと同じ考えや行動のままでは活躍できない時代になると言われています。また、答えが一つではない時代、答えが予測できない時代になるとも言われています。つまり、子供たちの未来は、我々の社会の延長線上にはないということです。これまで大切にされてきたマニュアルを正確に覚えて、それを高速に再現するという力は、日頃よく言われておりますAI、ロボットに完全に置き換わってしまいます。

これからの時代に求められる力は、どんな課題に遭遇しても決して諦めることなく多様な人と関わり、コミュニケーションをとりながら、より良い解決策を見出す力を育むことです。答えのない問題を解決するために学び続けようとする主体的に生きる力や、また、文化的な背景の異なる人々と仕事をしたり学んだりするためには必要な、多様な人々と生きる力、協力して生きる力を身につけてやりたいと思っております。

そのため、学校では、根拠をもとにして判断し、論理的に背景を分かりやすく伝える力や、人と人が対面でぶつかって、議論や討論などができる力、コミュニケーションする力、自ら学んでいける力、友達の考えの違いを認め、考えの良さを受け入れ、新たな考えを創造しようとする姿勢、このような力を育む教育を展開していくことが必要であると考えています。

また、学校では、多様な学びの場も必要となっています。小さなグループから大きなグループまで、場面に応じて適切な規模の集団を組むことができる多様な学びの場を保障することが重要です。そうすることで、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力を伸ばす教育を展開していきたいと考えています。

これは、この令和2年度から小学校1年生から6年生の一週間の間に受ける授業の時間数です。教科によっては、学年が上がるにつれて、回数、授業時数の減っている教科もあります。また、逆に、授業時数の増えている教科もございます。中には、1・2年生でのみ学習する教科、高学年で初めて学習する教科等もございます。また、2時間とか整数で表されているところと、1.7時間とかいうような形で、少数になるところは、月の中で、1週目は、例えば音楽をするけど、2週目は図工をするというふうにして、スラッシュとよく学校関係者では言っているんですが、そのようにして時間を捻出して学習を進めています。

赤字にしております外国語、3・4年生は、外国語活動というんですが、この時間数につきましては、小学校5・6年生でこれまで1時間でしたが、令和2年度、今年度から2時間という形になります。大体、年間35週で計算をしておりますので、週当たり2時間あるところでしたら、掛ける35をしていただいたら、年間で70時間、70回、学習する機会があるというふうに考えていただければいいと思います。

その中で、プログラミング教育についてお話をしたいと思います。これは、令和2年度から本格実施となりました。授業時間、授業時数の中にはプログラミングという教科はございません。さまざまな教科の中に位置づけて、本年度は、丹波市におきましては、1年生から各学年において、年間5時間以上取り組むようにしております。写真のようにグループごとにタブレットを使ったりして、友達と協働しながら、より良いものを作り上げようとするのも学び方の特徴でございます。

プログラミング教育のねらいは、プログラミング的思考の育成です。ちょっと難しい言葉になるんですが、プログラミング的思考とは、物事を順序立てて考え、試行錯誤しながら物事を解決していく思考のことです。頭の中で、起きてから学校へ行くまでの間に、これして、あれしてっていう

のをきちんと整理していく、順序立てていく、より効率的にしていく、これもプログラミング的思考だというふうに考えていただいていいと思います。

タブレットとかコンピューターをよく使います。というのが、その中で自分たちの頭の中を表現する、見えやすくする。あのタブレットには、子供たちが考えたことが言葉として表れています。それを試行錯誤を繰り返して、より良いものへと作り上げていきます。ちょっとビデオを見ていただこうと思うんですが、昨年度、崇広小学校で行ったプログラミングの授業なんです。30秒か40秒です。内容は、マルとバツで信号のようなものを作ろうというのが、この学習のねらいでした。

(ビデオ視聴)

(足立教育部次長兼学校教育課長)

ちょっと音声が聞き取りにくいんですが、四角のようなものを、マルというふうに考えてください。そして、次、バツを入れるんですが、信号って、すぐには変わりませんよね。しばらく空いてから変わりますよね。それをどのようにしてプログラミングするか、マイクロビットというソフトを使って、子供たちは、どんなふうにしたら、急に変わらない信号機になるかということはこのグループはしています。

ちょっと音が聞き取りにくくてごめんなさい。子供たちは、自分たち、このグループの2人は、マルからバツに変わる瞬間に空白を幾つか、何秒間か入れることで、点滅をさせることに気づきました。ということは、青信号が赤に変わる前、黄色が入るんですが、その変わる前って点滅しますよね。それと同じことを、このプログラムの中で踏むことができる、それが空白を数秒間入れるということです。それに気づいて、2人で、「これいいやん」というような声を出して、今、この後、自分のグループの発表を全体です。また、違うグループは、全く違う方法でこの信号を表そうというふうにしています。このような授業がプログラミング教育の一つになります。

今見ていただいたように、教師がプログラムを一斉表示、子供たちに教えるという授業から、子供たちが考えて違いを認めて、考える良さを受け入れて、新たな考えを作り出す、創造する授業へとプログラミング教育が向かい、こうした教育がほかの教科でも同じようにしていくというのが、今後、子供たちにつけたい資質・能力になってきます。

また、プログラミング教育だけではないんですが、ICT教育の推進ということで、1人1台の端末、これはタブレットとかパソコンのことだと思ってください、環境を整備するGIGAスクール構想、お聞きになった方もあると思います。そのような取組が文科省のほうで進んでおります。

また、学校には電子黒板、無線LANなどの配置、教育環境の整備も今年度進めております。1人1台のタブレットにつきましては、丹波市では今年度、2月ぐらいに1人1台ずつ整備ができるというような状況になってきております。

こういう整理をすることで、今後、教師が分かりやすく教える授業から、児童が自ら学び、他者と協働しながら問題解決をしていく授業、また、子供たちが試行錯誤を繰り返しながら問題解決に向かう授業が増えてくるというふうに考えております。最終的には、子供たちが今、鉛筆とか辞書のようにして、使っているICTが文房具の一つとしてなっていくのが理想の形というふうに思っております。

続いて、外国語教育です。5・6年生で週当たり1時間授業時数が増えました外国語教育について、2点お話をいたします。

1点目は、市独自の取組としまして、インターネットの電話サービスを

活用して、リアルタイムでオーストラリアの小学校と学習した英語を使って交流するネットd e イングリッシュを展開しています。昨年度は、全小学校で実施し、外国の文化に触れながら、自分たちの学びを生かす場を作ることで、子供たちの学習意欲の喚起につなげています。こうした取組が、子供たちが将来、文化的な背景が異なる人々と仕事をしたり学んだりしたりするために必要な多様な人々と生きる力、協力して生きる力につながればと考えております。

また、これも市独自の取組でございます。昨年度より英語が堪能である地域の方々にイングリッシュボランティアとして登録いただき、外国語の授業支援をしていただいております。今年度も12名の方に登録いただき、子供たちは、地域の方々が英語を楽しんで話したり、年齢に関係なく学び続ける姿に接し、学習に積極的に取り組んでいこうとしております。こうした地域の方々がゲストティーチャーとなり、子供たちの学習の支援や学校ではできない貴重な体験活動、また、このコロナ禍におきましては、地域の方々に消毒等のボランティア等もお世話になっております。こうした地域とのつながりは今後の教育の方向性を考えたときにおいても、各校のコミュニティ・スクールの中などで大切にしていきたいと思いますというふうに考えております。

以上、簡単な説明になったかもしれませんが、この後のグループ協議の中で、何か参考になればと思います。どうもありがとうございました。

次第

(足立教育総務課長)

4 グループワークの説明

それでは続きまして、次第4番のグループワークの説明ということで、本日のグループワークの進め方等について、川上委員長のほうから御説明をいただきます。

(川上委員長)

今、市教委のほうからの説明を見ていただいて、今から皆さんがしようとしていることは、まさに新しい学びの場とすごく接続してるんだということをお理解いただけたでしょうか。誰かが学校施設の在り方の方針を作って、それをぼんと下ろして行って、みんな理解してねっていうのが、例えば、昔の学習の在り方だったんですけど、今、これから皆さんにやってもらうというのは、こうやってグループの中で望ましい在り方について立場を超えて、いろんな意見を交換して、そこで望ましいとか、みんな納得できるより良い解っていうのを見つけていきましょう。これ、まさに今、子供たちがしようとしていること、将来必要な力だと思ってつけていることを今、大人の皆さんにも先取りしてやっていただくというようなものだというふうに理解していただけるといいのかなんていうふうに思います。

そのためのグループワークということになりまして、次第の5のところ、1、2、3、4とお題が並んでおります。自分の学校の魅力、自分の学校の課題、今後の学校に期待すること、どのような子どもを育てたいのかについて、1と2をまず取り組んでいただけるといいのかなんていうふうに思っています。

これも先ほどの説明等を聞いていると、ネットワークでつないで英語の教育をやりますとか、結構、先進的なことをやってるわけですけど、こうすると、今度は、足元を見て、自分たちの地域にとか、自分たちにどんな価値があるのかということの知らない、会話ができないんですね。いろんな人とつながるってことは、私にはこういういいところがある、私の地域の特徴はこういうものだよっていうのを人と伝え合えないといけない。

今回、ここですようとしていることも似ていて、ここの在り方を考える

上で、今、皆さんのお住まいのところですね、お子さんを通わせていらっしゃる学校、御自身が通っていらしゃった学校、地域ですね、どういういいところがあって、現状を見ていくと、どの辺にもうちょっと良くしたい点があるかというところを見詰め直す時間というのをまず取っていただきたいなというふうに思います。

どうでしょう、1回、どこかで切りますか。連続でやってしまいますか。四つお題が並んでるんですけど、恐らく土台になるのは1、2です。どういう良さがあって、どういう課題があるのかなっていうのを見ていただいた上で、良さを伸ばして、課題を克服していくには、どういう学校の在り方がいいのかな、どういうことを期待したいのかなというのを考えていただくのが3になるし、その中で子供にどういう力をつけてもらうといいなって考えてもらうのが4になるという感じなので、まず、1、2ですね。少し時間を取っていただいて、今が8時前ですから、恐らく50分ぐらいですかね、取れるのが。今、お手元に時計がある方、見ておいていただけるといいんですけど、8時45分とか、それぐらいが一つ、目途になるかなというふうに思います。

その後、各グループでどんな話が出たかというのを発表していただきまして、この話、先にしておくべきでしたね、すみません。どなたかお話をまとめて、まとめる役と発表役を別に設定していただいてもいいですし、発表役がまとめますというふうにしていただいても全然構わないんですが、これもファシリテーターにお願いする形でよろしいですか。

50分あるので、多分、最初の20分とか25分ぐらいを目安に1、2の皆さんのところの学校の魅力とか課題について出し合っていたきたいなど。後半の20分、25分ぐらいを使って、今後、どういうことを期待したいなということをお話しいただければというふうに思っております。ということで進めていただければと思ってるんですが、ちょっと補足は必要ですか。

では、事務局から、ちょっと補足をお願いします。

(足立教育総務課長)

失礼します。先ほど川上委員長からありましたように、ファシリテーター役として、今回は、それぞれのグループ、各校の校長先生に入らせていただいておりますので、校長先生にそのファシリテーター役をお世話になります。また、後に発表ということになってきますので、ここについては、PTAの方で複数おられると思いますので、最初に選出をいただいていたほうがスムーズかなというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。こちらからは以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。では、そのような形で進めていただければと思うんですが、ちょっとすみません、これ、事務局に聞いたらいいいんですか。各テーブルって、皆さん、顔見知りですか。大丈夫ですか。

(足立教育総務課長)

同じ校区なので、大丈夫です。

(川上委員長)

大丈夫ですか。もし、なじみじゃないといったらあれですけど、簡単な自己紹介を最初に数分、一言ずつでも入れていただいてスタートするのもいいのかなと思いますので、もう完全に顔見知りですっていうグループは始めていただいて結構ですけど、まあ、ちょっとそこまででもないなと思ったら、今日に一番誕生日が近い方から順に回ってください。

次第

5 グループワーク

- (1) 『自分の学校の魅力』
- (2) 『自分の学校の課題』
- (3) 『今後の学校に期待すること』
- (4) 『どのような子どもを育てたいのか』

(川上委員長)

ということで、自己紹介含めて、グループワークを始めていただければと思います。我々もちょっと幾つか回りたいと思います。お願いします。

(各グループ協議)

次第

6 発表

(川上委員長)

各グループ、よろしいでしょうか。多分、こういう感じになればなという話が出てきて、まとめに御苦労されているグループも多かったと思うんですが、それぞれどんな感じの話がまとまったのかなというのは、すみません、私から見て前のほうからお話しいただければなというふうに思っておりますので、まずこちらのグループからお願いします。各グループ5分ぐらいを目安に御発表いただければというふうに思います。よろしくお願ひします。

(Aグループ：竹田地区)

失礼します。Aグループです。Aグループでは、まず、どのような子どもを育てたいかということから考えていきました。その中で、三つ、心のこと、それから学ぶこと、それから、自立、自分で立つ、自分を律するということが出てきました。心の部分では、やっぱり優しさとか感謝とか、挑戦をできるようになってほしい。学びの部分では、創造したり伝えたりする力を育てたいということで、こんな子供を育てたいなというのをまず出しました。

そこから、じゃあ、今の自分たちの学校の魅力と課題について考えていきました。魅力は、やっぱり校区にある歴史、これまでの歴史という部分と、あと、環境、地域のサポートであるとか学びということが、やっぱり一番大きいなということ。それから、課題としては、人数がやっぱり減ってきていて、グループとか人間関係についてもそれがあるのかなということが課題として出てきました。

それらを受けて出た歴史とか環境の良さを継承していこう、それを人数が減っている中でどうしたらいいかなということから、今後の学校に対することということを意見を出し合いました。

子供たちの多様さ、多様性ということで、特別支援であったり不登校であったり、そういう部分の多様性に対応していくために、やっぱり学校とか先生方にも工夫してもらいたいし、人数の課題解決のためには、人数がある学校とか環境を整えていくということも大事ですし、また、少人数であるなら、少人数の中でも自立した学校を目指していくことが大事なのかなということで議論が終わりました。以上です。

(川上委員長)

では、こちらのグループに御発表いただければと思います。お願いします。

(Cグループ：吉見地区)

まず、自分の学校の魅力としては、伝統的な面では、金管バンドがある、学校の取組面では、新しい教育がされている、自分の子供に熱心に教育してもらったなどがありました。子供たちの自立の面では、優しい子が多い、思いやりの子が多い、穏やかな子が多い、元気がある、子供たちが素直、仲が良い、親同士が仲が良いなどの声がありました。地理的な面では、市

島町の中心にある、歩いて学校に行ける、空が広いなどの声がありました。保護者、地域の面では、保護者が協力的、地域が協力的などの意見がありました。施設面では、校舎内が美しい、体育館がすばらしい、会議室もある、グラウンドで遊べるなどの声がありました。

反対に、自分の学校の課題としては、職員の数が少ない、また、子供の自立の面では、積極性に欠ける、挨拶が少ない、子供同士のつき合いが少ない、ありがとうと素直に言える子が少ないなどの声がありました。また、地理的な面では、水害の不安、敷地内に入りやすく、不審者侵入の不安がある、あと、大きい道路があるので、交通安全の課題があります。また、保護者、地域などの面では、運動会での地域の寂しさ、子供が卒業すると見えない、感じる事が出来ないなどの意見がありました。

3番に、今後の学校に期待することでは、まず、教育面では、金管バンドを続けてほしい、実用的な教育をしてほしい、分かりやすい、楽しい授業をしてほしい、一人一人に合った支援をしてほしい。また、地域との連携の面では、コミュニティ・スクールをどう考えていくか、地域との関わりをどうしていくかなどがあります。

期待することで、こんな子に育ててほしいという、ちょっと4番と一緒にいるんですけど、紹介させてもらいます。試行錯誤をたくさんできるように、ふるさとの良さに気づく子供を育てる。幸せな人生を送る子に育ててほしい。思ったこと、考えたことをしっかり言えるようになってほしい、地域を担う子供になってほしい、吉見にいて、世界に羽ばたく子にもなってほしい。積極的に動ける子供になってほしい。問題解決力のある人になってほしい。まだたくさんあるんですけど、良いこと、悪いことが考えられる子供になってほしいなどの意見がありました。以上です。ありがとうございました。

(川上委員長)

では、真ん中のグループ、御発表をお願いします。

(Fグループ：美和地区)

美和地区の発表をさせていただきます。(1)の自分の学校の魅力としては、大きく四つに分かれまして、挨拶、つながり、コミュニケーションということと、ゆとりある空間、豊かな自然だとか、地域愛ですとか、個性といったことが出ました。それから、2番の学校の課題としては、これもまた大きく四つ出て、先生の多様性の少なさですとか、狭さ、理解、少子化というところで、特に保護者の負担があるというような意見が出ていました。それから、三つ目の今後の学校に期待することと、四つ目のどのような子供に育てたいかというところの区分けがちょっと難しく、自立ですとかという区分けと承認ということで、個性の良さ、多様性、思いやり、チャレンジ、自己肯定感、体験ですとか、学校では風通しの良い学校というような意見が出ました。以上です。

(川上委員長)

では、お願いします。

(Bグループ：前山地区)

前山地区の発表をさせていただきます。学校の魅力イコール地域の魅力ということで考えました。内容的には、五台山の上鴨阪の水源地が美しい、また、自然豊か、山、川であるとか、大杉ダムの桜が美しいであるとかというのが出ました。あと、また学校関係では、先生との距離が近い、ほとんどの親と子供の顔が一致する、あと、地域では、働く姿が見える、三世代が多い、素直に学ぶ心、農業、あと、企業さんでいうと、技研さんとかメルコパワーデバイスさんなんかがあって、地域から日本に誇れるような技術をしている会社があるということを再認識しました。

課題といたしまして、児童数が少ない、地域のことを知っているようで

知らない、冒険心はそんなにない。あと、駅が近くない、バス停がないなど。あと、これから先、どういう児童数になっていくかということの問題提起として考えてます。

3番と4番、重なってしまうんですが、期待することとして、できない子には分かるようになるまで教えてほしい、また、学ぶ楽しさを教えてほしい、勉強したいと思う気持ちを持たせてやりたい、地域の良さをもっと知ってもらいたい、携帯的なIT機器を一定レベルで使えるようにさせてやりたい、たくさんの方に挑戦できる環境、多くのことを考える力を身につける、友達と遊ぶことが楽しい、人と人とのつながりを大切にしてほしい、相手の気持ちを理解できる優しい心、田舎で育ったことをコンプレックスに思わない、この辺は、ICTとかを活用したのにもつながるんですけど、都市部と地方の格差ですね、学力、情報力、体力なんかの差をなくしていくことを期待しております。

以上で、前山地区の発表を終わります。

(委員長)

ありがとうございます。では、お願いします。

(Dグループ：鴨庄地域)

鴨庄地域です。まず1番の学校の魅力について、友達、保護者、地域とのつながりがすごく多いということと、人数が少ないという関係で、一人一人が主役になれる場面が多い、元気な子供という意見が多く出ました。課題なんですけど、1番の魅力で出たみんなが主役になれるというのが逆にプレッシャーになって、一人一人の負担が大きかったり、責任を感じたり、逆に目立ってしまったという部分が課題になっていたり、チームスポーツができない、男女の偏りが出る、同じメンバーになったり離されてしまったりするというのが課題として出ました。

3番、4番が一緒になってしまうんですが、学校に期待することとして、先生との距離が近いので、そこを生かして、個人個人を見れるので、そのいいところを伸ばせるというところと、コミュニケーション力、友達との協調性などを学んでほしいなと思います。

どんな子供を育てたいかという意見では、出たような意見になると思うんですけど、友達思いとか課題解決を図る意見が言える子という意見が多かったです。以上になります。

次第

7 まとめ

(川上委員長)

ありがとうございます。

各グループから発表いただきました。ありがとうございました。かなりの部分で出てる言葉ですね。出てくる言葉で重なる意見、それぞれの校区ごとに意味を持った良さであり課題ですから、それぞれの校区の個性、特性として捉えていただくのが大事なというふうに思っています。

今回、こうやって今後、市島地域でどういう教育をしていこう、していくのが望ましかろうかという話を、もうちょっと身近なところからやっていただいたのが今日の時間かなというふうに思います。大所高所から、子供たち、こういう方針が進みますという話ではなくて、皆さんの目線で見るときに何を感じていて、どういうものが望ましいと思ってるかというのを出していただいたというのが今回かなと思います。

この時間、何か僕がまとめることになるんですけど、まあ、そんなにまとまるわけではないと思うんですね。感想かたがた、お話をさせていただくと、恐らく1地区の方はお気づきになってると思うんですけど、良さと課題が表裏一体になってる場面って、結構ありますね。小さなコミュニティで人間関係が密にとれるよというのと、どうしても多様性が確保できない

というようなこととか、先生との距離が近いんだけど、大人数でやるのがやりにくいとかですね。今回、この先、小学校統合を検討していく中のポイントの一つにこれはなと思っています。

それはどういうことかという、どういう結論を出すにしても、全方向的に全員が満足する学校の形というのは、なかなか、想像する、しないだけの次元では達成できないという話ですね。では、今日のグループワークを何のためにやったかという、どっちの結論になったとしても、小さい学校を残すという結論になったときに、どういうことが必要なかという話ですし、学校統合するよというふうになったときに、じゃあ、何を大事にしていこうかと。ほぼ全てのグループから、地域とのつながりであったりとか、地域と協力してということだったと思うんですが、小学校を統合して、地域とのつながりというのが、相変わらず統合後の学校の半径何キロ以内の地域住民と学校の関係しか持ち得ないという地域レベルだったら、これは、学校がなくなってしまった地域にとっては、その地域と学校の間が根こそぎなくなるということを意味するので、これは恐らく望まれていないだろうというようなことが今日のやりとりで分かるんですね。

施設のどういう結論を出すかというのは、まだこの先の話ですが、どの結論を出したとしても、運用上の工夫とかが必要な部分というのは必ず出てくるということですね。大きな統合をして、大きな規模になったとしても、地域とのつながりは絶対に忘れてはいけないんだという話でしょうし、小規模の学校を残すとすれば、多様性、学びの機会というのをどう確保していきましょうかというのがすごく大事になってきます。

この先、どういうところに落としどころ、結論を見出していくかというときに、そのうち、どっちが大事かとか工夫なくできるのはどっちかというところがポイントになってくるわけですね。今日お話しいただいたのは、もう一度繰り返しますが、今日お話しいただいたことは全部大事で、どの結論を持ったとしても、その結論に合わせて、こういう点について工夫を必ずしていかなければいけませんよということを今、出し合っているということですね。

なので、今日、どういうやりとりをされたかというのは、ぜひ心にとどめ置いていただけるといいなというふうに思っています。

もう少し申し上げますと、最初に市教委からの御説明の中にもあったみたいに、技術的な進歩もあって、小さな学校を残していないとできないこととか、統合しないとできないことというのは、昔ほど多くなってきてるんですね。例えば、交通手段がすごく大したことなくて、情報通信技術が大したことなかったら、それは、クラスサイズを大きくするとか、学校の規模を大きくする以外に、いろんな人とつながって学ぶという手段ができなかったはずなんですけど、今、教室から海外につないで英語をやっている話が出てきましたよね。技術でカバーできるというところがある。

それから、大人数の活動がしにくくなったときに、この地域ではないですけど、冬の交通が途絶しちゃうと、全然やりとりができませんということはないので、何とかすることもできる。それから、大きな規模になることで、地域との連携が難しくなるんじゃないかという御心配があるかもしれないですけど、それは、統合後の学校で地域連携も、どういう地域割りでやりましょうかと、コミュニティ・スクールみたいなものをどういうきめ細かさで運用していきましょうかということで、実は確保できる。コミュニティ・スクールの仕組みとか、例えば取っていなかったときで言えば、物理的に近い地域の人とのやりとりしかなかったかもしれないですけど、そういうことをしない運用の仕方というのもできるようになってくると。

言いたいことは何かという、どっちに転んでも、工夫の余地というの

はいっぱいあるよというのが今の状況です。だからこそ、今日のやりとりで何を大事にしたいのかですね。学校を統合する、しないの形に合わせて、じゃあ、運用上何を工夫していくことが求められますという話をその次の段階ではしていかなきゃいけなくなって、その辺が基本的な意見交換の中でとか、皆さんの胸の内をそれぞれ見るような形になったのかなというふうに思っています。

そういうことで、今日、このやりとりですね、事務局で今日のそれぞれの意見の記録をとっていただいていると思うので、それぞれの御発表の中で語り尽くせなかった部分も含めて、しっかり引き取っていきながら、望ましい次の形について、さらに検討を進めていくということになるのかなというふうに思います。

ということ聞きながら思ったところでしたが、いかがでしょう。何か言い忘れたこととか、言っておきたいということがあれば、ぜひ頂ければと思います。

ぜひ、こういう機会が各校区で実施されることってなかなか難しいんですけど、言葉にするのがすごく大事なんですね。今日、附せんにいっぱい書いていただきましたけど、多分、中盤、後半になって、書き慣れてくると、より言葉が出てくるようになるとか、最初のうちは、うちの校区なんてとか、うちの地域なんて普通だよと、特に特色ないですとかですね、これが中学生、高校生ぐらいに地域を振り返らせると、何もないっていう言い方になったりするわけですけど、ちゃんと言葉にさせると、何もないっていうことは絶対ないんですね。うちの地域なんか何もないよっていうような中学生、高校生に、自分たちの地域のことをちゃんと分かってもらいましょうというときには、こういうふうに書かせるというのが非常に大事で、今、書くというのを通じて、それから、今、御意見を交換していただいたのを通じて、またお気づきになったりとか、大事にしなきゃいけないのはこういうところだなというのを持っていたらいいなと思います。次回以降、こういう一定のやりとりというのを踏まえて、次の形に向けての意見交換というのがまた進められればなというふうに考えております。

すみません、五つのグループの話を大局でまとめるというのは、さすがにちょっとこの時間だと無理だったので、感想を語ることで、こうやってお時間をとっていただいた意味みたいなものの説明とさせていただきます。ぜひ、引き続きの会議の話合いに御協力いただければというふうに思っております。

では、今日の進めたかったことについては以上ということになりますので、また後ほど、事務局にお戻りする形でよろしいでしょうか。お願いします。

(足立教育総務課長)

ありがとうございました。またグループワークのほうでも積極的に皆さん方に御発言いただきまして、たくさんの意見が出ましたので、次回につながるというふうに思っております。

次第

8 次回委員会の日程について

(足立教育総務課長)

次第のほうでは、次回委員会の日程ということで書かせていただいております。事務局としては、次回、10月16日金曜日、午後7時30分からこの会場で開催したいというふうに考えております。委員さんの御都合、お伺いしたいというふうに思いますが、いかがでしょう。

そしたら、次回、先ほど言いました10月16日金曜日でお世話になります。先ほど川上委員長さんからおっしゃっていただいたように、今日の

ワークショップの中で出てきたところ、特に何を大事にしたいのかとか、望ましい形についての議論、検討というところで、まず議題のほうは整理をさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

次第

(足立教育総務課長)

9 閉会

それでは、最後に閉会ということで、副委員長様から閉会の御挨拶をよろしくお願いいたします。

(副委員長)

皆さん、本日は大変お忙しい中、お疲れのところ、第2回小学校統合検討委員会に御出席していただき、ありがとうございました。本日の検討委員会におきましては、グループ別テーマに沿ったディスカッションをし、実りの多い発表になったと思います。小学校の統合検討を今後考えていく上で大変有意義なグループワークになったと感じました。

以上をもちまして、本日の次第につきましては全て終わりましたので、閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。